

幼稚園教育課程の運営の研究②

〈教育計画とその実践〉

Ⅲ組による保育の相異

—実験保育について—

同じ経験のもとに保育を展開しても、実際は組によって異なるか。

1

研究の目的

同じ経験でも目標の重点をかえることによって、導入から結末までいろいろな展開方法があることを実際を通して明らかにするとともに目標による特殊性がどの程度実際に表われてくるかを実験する。

2

研究の方法

①同一経験の設定

経験として何をとりあげるかが、第一に討議されました。その結果この時期の子どもたちに興味深いもので、しかも、いろいろな展開が試みられる「のりものごっこ」をとりあげることに

なりました。

②主目標の設定

まず組毎に、その必要性から、主目標をだしあって、それらなるべく重なりあわないように話し合いながら、無理のないところで四組ことなる目標になるようにしました。

③各組の主目標

経験「のりものごっこ」の主目標を、組別にあげると次のようになります。

経験「のりものごっこ」による各組の主目標

二年保育年長	A組	友だちの範囲を広め協力的な社会生活態度を養う(社会)
一年保育	B組	自主的な態度と創造的表現力を養う(製作)
一年保育	C組	科学心の芽をつちかう(自然)
二年保育年少	D組	生活のきまりを守ることにより社会性を養う(活指導)

津 守 真
佐 久 間 重 代
相 間 誠 子
岡 部 静 江
菊 地 喜 久 子

以上の目標のもとに、各組の保育を、展開しましたが、その実際は、果して目標の特殊性が、はっきりと浮び上ったのでしょうか。末分化な総合的な幼児の生活だけに、結果をつかむのは、非常に困難でもありました。

活動の比軽表を作って、各組の比軽もしてみましたが、表に現れたものは、展開の方法こそちがえ、ほとんど同じ内容を含んでいたのです。では次に具体的にあげて見ましょう。

③共通して、でてきた活動としてあげられるものは、

- ・のりものについての話し合い
- ・絵本、見学、玩具などによる観察
- ・のりものの製作
- ・のりものごっこ遊び

以上、教育内容の各領域にわたる活動が、どの組も総合された形で表れおり、これは共通的な結果でした。

それでは、目標をかえたことよっての、相違点はどこにあったのでしょうか。

◎相違点

活動の比軽表によりますと、一見、どの組も同じような活動をしているように見られましたが、教師は、この計画を立てる時にも、また、実際指導を行う時にも、それぞれ主目標をより多く意識してきたわけですから、それにともなつて、主目標による活動が、幼児に、より多く経験されたことは、たしかでした。

同じ「のりものを作る」という活動についても、それぞれのねらいによつて、子どもたちの経験のしかたのように異なっていました。



大きなのりものに皆で協力して絵をかいています。

①子どもたちの立場から、その経験のしかたの相違。

社会性をねらう組では、グループで作ることが、より多く経験され

創造性をねらう組では、材料をいろいろ使つて、自ら工夫して作ることがより多く経験され、

科学性をねらう組では、

どういう材料を使い、どう作つたらよく動くかなどを工夫することから注意深く観察したり、疑問をもつ機会が、より多く経験され、

生活のきまりをねらう組ではのりものを作らせながら、物を大切にするとか、片づけをきちんとするなどの、きまりを守ることが、より多く経験され、こうした意味から、幼児たちは、それぞれ重点的な指導をうけて来たわけです。



いろいろなのが工夫して作られました。

したがって、教師の側から云えば、指導上の留意点というものも組毎に当然ちがっていたのでした。

(四)教師の立場から

その指導上の留意点の相違

・社会性をねらう組



「誰を舟にのせようか」
一人が「じゃんけんをしよう」と言いました



大きなお舟を作った所です。真中のお客様は自発的な子供たちのジャンケンできめられました。協力の姿がこんなところにも見られました。

例(1)銀行あそび

(2)遊びの中でおこる社会性の問題は、その都度、話し合い遊びを工夫させて、その解決をはかりました。

切符を買うお金を作ったところ、独占したがると子どもとのことが問題となりました。そこで銀行を作るようになったので、自動式にお金が出るように工夫させ、興味深く利用するように仕向けました。

(1)郷土的な遊びや、フォーク

ダンスをたのしませると共に、のりものを主題とするいろいろな遊びの中で、グループによる表現遊びを、より多くもちながら友好関係を考慮し、協力的に導きました。

例(2)マイクあそび

二三人が、空かんを利用して駅のマイクをつくり、放送を始めたので、遊びの中で自然に、交通のきまりを守り協力的になるように、この遊びを活用させたのです。

・創造性をねらう組



子どもたちで工夫して作った銀行です。ボタンをまわすと自動式にお金が出るので大喜び。売上げは銀行にあずけれお金のなくなることはありません。いつでも買物ができます。



向うでは男児が電車づくりの相談です。女児は布に絵をかいてかわいいカーテンを作っています。

(1)子どもの一人一人が自分で考えて作り工夫するよう誘導する。

(2)大きな電車も皆で考え、工夫しながら楽しく創作していくように仕向けました。

・科学性をねらう組

のりものの観察や玩具あそびをさせながら、その動きや、特徴に注意を向け話し合いをもったり、比軽させたりすることから、さら、いろいろなものを注意深くみつめていく態度を助長していく。

・生活のきまりををねらう組

のりものの観察や、製作、その他、いろいろの遊びをさせながら、それぞれに必要な生活のきまりを守るように仕向ける。(そのための話し合いも

たびたびもつようにする)

以上のような相違点があげられ、ここに、主目標による特色も表われたと云えるでしょう。

そして、研究の結果を、次のように、まとめて見ました。

4 研究の結果

①どのようなねらいをもっても、子どもの生活の自然であるように保育を展開していこうとすれば、そこには、共通な活動が、多くなるのは当然である。

したがってそれぞれの活動に対する適切な指導もなされたわけです。

②こうした活動をこなせながらも、教師のねらいにそった活動を、より多く子どもが経験していくような、指導が含まれていました。

③ただし計画の段階において、教師の意識としては、重点的な目標がより多く意識され、その場合、実際の展開にあたっては、共通の活動が、非常に多くの部分を占めることがみられました。

結 語

二年間の研究を終えてなお、私どもの間には、数々の問題や、疑問がのこされており、カリキュラムの研究は、掘り下げられる程むずかしく、行詰りを感じるほどでした。時には回り道をし、足ぶみをしていくこともありましたが、苦しんだだけの効果は得られたように思います。

二年のあゆみを話し合いながら、共通の考えのもとに次のような

結論を見出したので、最後にそれをつけ加えて、この報告を終ります。

① 私どもは、カリキュラムをいかに運営するかを研究するに当り、カリキュラムは、固定した教材の総体ではなく、子ども活動とともに、動的に展開されるものであるという前提に立って出発し、子ども状態をよくみつめて、日々の保育をすすめる、その活動の展開の記録を集積していきました。

② カリキュラムの運営に当って、そのように実際の活動の展開を記録しておけば、それにつづく保育の展開にも役立つし、また同じような、経験を計画するときにも、よい参考資料となるという考えから適切な記録を残す方法を工夫しました。今後も、成功し失敗した保育を交換することができればこれを参考とすことによってカリキュラムを向上させる一資料とすることができると思います。

いろいろの曲折を経なが、以上の研究を進めていく間に、私どもは、教師が子どもの状態をよく知ることが、いかに重要であり、すべての活動の基礎となるということを、あらためて知りました。ここに報告したものは、日々の保育をすすめるながら、カリキュラムを向上させるために私どもの扱った、一つの努力にすぎませんが、カリキュラム運営の問題に一つの方向が示されたと思います。

今後現場教師と研究者が協力して、これらの問題を研究していくことによってさらに新たな道がひらけていくと思います。

(相馬誠子記)